

第5回道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会 議事録要旨

日 時：令和 元 年 1 1 月 2 0 日（水） 午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 1 時 3 0 分
場 所：荒尾市役所 3 1 号会議室
議 題：1. 前回（第 4 回）委員会について
2. 整備手法及び管理運営手法について
3. 南新地地区における施設間機能連携とスマートシティについて
4. 道の駅あらお（仮称）基本構想骨子（案）について
出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、山代秀徳氏（荒尾市観光協会会長）、高橋伸佳（JTB 総合研究所所長）、高木洋一氏（荒尾商工会議所会頭）、西川幸一氏（荒尾漁業協同組合代表理事組合長）、迎五男氏（玉名農業協同組合荒尾支所担当理事）、吉村信明氏（荒尾酪農業協同組合代表理事組合長）、古城義郎氏（荒尾市農業委員会会長）、内田保代氏（荒尾市食生活改善推進員協議会会長）、畑添美香氏（消費者代表）、長江亮氏（独立行政法人都市再生機構九州支社都市再生部市街地整備第 2 課長※代理出席）、北原伸二氏（荒尾市産業建設部長）
事務局：田中産業振興課長、米田農林水産課長、末永都市計画課長、田川政策企画課長、高村産業振興課長補佐兼道の駅整備推進室長、松本産業振興課参事、株式会社マインドシェア

1.開会

田中産業振興課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2.欠席委員及び代理出席者の紹介

田中産業振興課長から、欠席委員及び代理出席者を紹介した。

3.委員長あいさつ

寒い中お集まりいただき感謝申し上げます。いよいよ道の駅の基本構想も大詰めとなり、これまで皆様方から、たくさんの前向きで貴重なご意見をいただき、事務局の方でもうまくまとめていただいた。本日は、全体的な内容を示していただけたと思う。

4.議事

（1）第 4 回委員会について

①第 4 回委員会の振り返り

②意見を踏まえた施設機能（案）の提案について

事務局が、資料 1 に基づき、第 4 回委員会の振り返りについて説明し、引き続き、

意見を踏まえた施設機能（案）の提案について説明した。

意見や質問等はなかった。

（２）整備手法及び管理運営手法について

①道の駅における整備手法について

②道の駅における管理運営手法について

事務局が、資料２に基づき、道の駅における整備手法について説明し、引き続き、道の駅における管理運営手法について説明した。

内容について意見交換がなされた。

（主な意見）

○事業費について、単独型の場合は、市が全額負担ということであるが、国からの補助等はないということか。

【事務局】

⇒何らかの補助は活用できると考えており、こういった補助金が活用できるかといったことを今後検討していく必要がある。

○PFI方式についてももう少し具体的に、PPPの内容も含めて説明をお願いします。

【事務局】

⇒PPPというのは、端的にいうと官民連携ということである。指定管理制度、公設民営もPPPに含む。PFIは、民間の資金を活用し、建設から管理運営までやってもらうという考えである。

公設公営では、運営手法が、民間に劣るという部分も指摘される。また、建設に民間資金が投入されるため、資金の有効活用がされているかなどのチェック機能も働くというメリットもあるため、様々な公共施設でPFI方式を検討しているということである。

ただ、PFIによる実現可能性やメリット・デメリットの比較検討については、来年度以降の課題になると考えている。

○荒尾市の場合、給食センターも含めてPFIという考え方もあるようなので、端的に、簡単に、これから市民の皆様に説明していただいて、良い点と悪い点を明確に出していただきたい。

(3) 南新地地区における施設間機能連携とスマートシティについて

①道の駅と各施設の機能連携について

②道の駅における先進技術の活用について

事務局が、資料3に基づき、道の駅と各施設の機能連携について説明し、引き続き、道の駅における先進技術の活用について説明した。

内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

○各施設の機能連携は、他の道の駅にはない非常に特徴ある最大の強みとして活かしていかなければならないポイントである。

○A Iの活用については、加速度的に生活の中に浸透し、実現してきている中で、道の駅の中でも取り入れる。直売施設における売れ筋予想などは、有意義なのではないか。A I技術を活用できる人が、直売施設に携わって、人を温かく迎えられようなどころがあると良い。例えば、母の日にこういった物が欲しいのだけど、と言ったら、こういう物が売れている。と提案できるような、人とA Iの関わりも重要である。ここでは、健康というキーワードが大きなコンセプトであり、そのようなものもA Iを使って、食生活の改善等をやっていけると良いと感じた。

○今後、施設機能を検討していくにあたっては、機能をさらに分解していくと、もっと機能連携が図られるのではないかと。具体的に言うと、色々な体験プログラムあり、公園、緑地があるとなれば、手が汚れたり、足が汚れたりするイメージを持った。そのような中で、休憩という機能が示されているわけであるが、例えば、トイレが一つにあたると考える。高速道路の管理運営を行うNEXCOでは、パーキングエリア、サービスエリアに綺麗な美しいトイレを設置する考えが広がっており、それだけでも集客が図られて、物販にも繋がるといことがわかっている。より快適、より便利、より美しい休憩施設空間という位置づけである。そのように機能を分解していくと、新しいイメージ、シナジーが生まれるのではないかと。

○トイレについて、特に女性は重要視している場所であり、ものすごくきれいなトイレを作るだけでも集客が期待できるかと思う。

○文化施設、子育て関連施設との連携について、料理の加工学習体験など示されているが、8月10日に開館した荒尾干潟水鳥・湿地センターにも同じような設備ができた。そこは、有明海の海産物を中心とした、体験学習の料理コーナーであると思う。そのような設備がほとんど使われず、物置になるようなことが起きないようにしなければならない。湿地センターでどのような使われ方をしているのか。わかる範囲で教えていただけたらと思う。

【事務局】

⇒湿地センター自体にはたくさんの来訪者に来ていただいているが、料理コーナーの活用はこれからというところである。

○作ったのは良いが、利用する人がいない、ということにならないよう、熟考の上、検討いただきたい。

○料理教室に人を集めるため、内容の魅力と伝え方、発信の仕方も大切である。

○PRの仕方も大きな要因になる。道の駅で、学習や料理体験ができると言っても、誰にも使われなければ、大きな損失になるため、しっかり検討していただきたい。

○温浴施設と宿泊施設が示されているが、どこが主体になるかにもよると思うが、この二つの連動性について当局の考えを伺いたい。

また、飲食等で健康を切り口にする考え方であるが、農業振興になるような勉強会などを開催し、健康的な農産物を作るということも大事と思っている。その点では生産者の方から現状のままでは厳しいかもしれないというお話も伺っている。飲食店についても、荒尾らしさをどのように出していくのか、考えがあれば伺いたい。

【事務局】

⇒温浴施設、宿泊施設については、民間企業に入ってもらいたいと考えており、誘致については、道の駅も合わせて誘致していかなければならない。道の駅についても経営していただける事業者をどのように募集していくのか。そのようなことも併せて考えていく。

農業振興の分野については、様々なご意見をいただいている。農林水産課を中心に、農業者の方、地産地消、地産外商（消）をどうしていくのか大きな課題であるが、併せて取り組んでいく必要があると考えている。

○AIの導入について、金額的な問題などあるのか。

【事務局】

⇒予算等については、まだ全く決まっていない。

（４）道の駅あらお（仮称）基本構想骨子（案）について

事務局が、資料４に基づき、道の駅あらお（仮称）基本構想骨子（案）について説明した。

内容について意見交換がなされた。

（主な意見）

○構想をまとめる上では、見せ方も重要と考える。近隣競合の他の道の駅との差別化について端的に表す必要がある。

コンセプトを「幸せと元気の創造ステーション」とし、食に焦点を当てて差別化を図

ることをベースとしているが、道の駅単体だけでなく、周辺の施設との連携で特徴を出すところが、荒尾の道の駅の非常に大きな特徴である。

食プラス、周りとの連携で価値を高めるということは他にはないと考えられるため、その部分を特に強調するまとめ方にし、端的に表すことができれば、非常にわかりやすく、インパクトがあるのではないかな。

機能の分解の話があったが、ウェルネス拠点の他の施設との連携というところをできるだけ具体的に書けると伝わりやすいし、また、それプラス、テクノロジーを活用したスマートシティにより、さらに差別化が図られるのではないかなということを感じた。

○国交省を中心に、道の駅の新たなステージに向けた検討がされており、今般、「道の駅 第3ステージ」として提言が取りまとめられている。個別の要素としては特に目新しい訳ではないが、地方創生や観光拠点、キャッシュレス化などが示されており、方向性としては合致している。本構想で盛り込めるものは盛り込み、国の施策に沿っていることもアピール出来ると良い。

○道の駅を作るきっかけは、競馬場跡地を有効活用したいということと、もう一つは、有明海沿岸道路が延伸してくることも一つのきっかけであると思う。

供用開始時期について、まだ発表はないが、同じ時期に合わせて道の駅が整備されるということによいか。

【事務局】

⇒有明海沿岸道路の延伸と合わせたいという考えはあるが、一方では、街をつくるという視点もある。ポツンと道の駅だけがあってもいけないということもあるため、街づくり全体を見ながら進めていきたいと考えている。

可能であれば、沿岸道路の開通、それとまち開きなどの時期が合わせてできるようなイメージで、全体を調整しながら進めていきたいと考えている。

○うまく時期が重なることが望ましいため、期待している。

○料理教室や学習体験は、みどり蒼生館で実施されているが、施設や設備の使い勝手が悪い部分がある。荒尾干潟・水鳥湿地センターにも行ってきたが、調理場のようなものはあったが、「これで何をするのか？」という感じであった。利用しやすい形状にすること、料理ができること、教室があること、そして、もっと宣伝をする必要があると思っている。そのような観点を踏まえて整備していただきたい。

○アウトドア施設についてであるが、キャンピングカーを最近よく見かける。有明海は、夕陽がとても綺麗で、特に夏場は日が落ちるのが午後8時くらいである。

キャンピングカーで夕陽を眺められるように、施設閉店の時間帯やキャンピングカー

で泊まれる場所など、工夫をしてもらいたい。

○荒尾市にバーベキュー施設があるため、行ってみたけど、場所がわからなかったという他県の方がいた。また、新興住宅内などで近所に迷惑がかかるため、庭でバーベキューができない方もおられるため、わかりやすい場所でバーベキューができるような施設があれば良い。

○スマートシティの件については、構想全体の中ではすごく異質な部分があると思う。そのような中、二つ提案がある。

一つ目は、スマート化ありきの見せ方にならないよう、改めて、なぜ取り組むのか、課題を明確にしてまとめていき、対応するイメージを埋めていくと良いと思う。具体的には、要求（利用者のニーズ）があり、それに対してどうしても付備しなければならない機能があり、その実現手段として、このスマート化のイメージがある。というような形で、まとめていくと良いと考える。

二つ目は、スマートシティの機能イメージとして示してある内容について、B to C、B to Bの考え方で、個人向けのサービスなのか、法人向けのサービスなのか、検討の網羅性を見せるために、整理してまとめると、基本構想の精度が高まるのではないか。

5.その他

田中産業振興課長が、次回の委員会開催については、1 月中に開催する意向を伝えた。

6.閉会

田中産業振興課長が、閉会を宣言した。